

# 走れメロス コラボ群読劇

世界の補習校をつなぐ群読の輪



離れた場所にいる子どもたちが、  
太宰治『走れメロス』を通して声を重ね、  
一つの作品をつくり上げました。  
文学を『読む』から、『感じる』『聴く』『表現する』学びへ。

参加校 | シカゴ双葉会補習校 / サクラメント補習授業校 / ブルーミントン補習校  
授業指揮監督 | シカゴ双葉会補習校 金谷先生

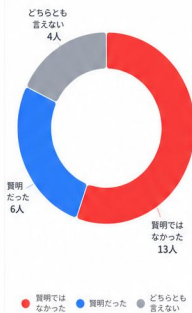


# 声を重ねて生まれた、 学びとつながり

## メロスの行動は賢明だったか？

クラスの考え方タイプ別まとめ（総数 23人）

### 意見の割合



### ① 賢明だったと思う 約6人

主な理由

- ✓ 命をかけて約束を守った勇気
- ✓ 王の心を動かし良を救った

キーワード

王の心を動かしした 信頼 勇気

### ② 賢明ではなかった 約13人

主な理由

- × 友人を人質にするのは危険すぎる
- × 話し合いや協力で解決すべき
- × 計画が曖昧でリスクが大きい

キーワード

危険 別の方法 無責任

### ③ どちらとも言えない 約4人

主な理由

- 一 結果は良かったが方法は問題あり
- 一 良いとは言えない

キーワード

結果は良いが... 半分半分

“ 今日生まれた  
声のつながりは、  
ここで終わり  
ません。”



## 学びの成果 | 多面的に読む力

『メロスの行動は賢明だったか？』という問いに対して、生徒たちは複数の立場から理由を挙げ、物語を主体的に読み解きました。



## 学びの成果 | つながりの実感

学校を越えてつながることで、『一人じゃない』学びの共同体を実感する機会となりました。

『走れメロス』が伝える『信じる気持ち』は、学校を越えて声を重ねたこの実践の中にも生きていました。

ONLINE群読劇 実施日 |  
第一部（前半）1月24日 / 第二部（後半）2月14日